

平成21年度 第2回FDセミナー報告

都市教養学部人文・社会系教授 矢嶋 里絵

【セミナーの概要】

2010年2月17日（水曜日）15時から、南大沢キャンパス6号館101号室において、永井徹教授（人文科学研究科・FD委員会研修部長）の司会により開催された。参加者は、南大沢キャンパス69名、日野キャンパス12名、荒川キャンパス17名の計98名である。

テーマは、「単位制度の実質化シリーズ②学習指針としてのシラバスと初回授業」であり、今回はとくに初回授業に焦点を当て、本学教員のガイダンス及びそれ以降の学習サポートの取り組みを紹介するものである。

はじめに、「何を教えたかではなく、学生1人1人がどういう資質・能力を身につけたのかが問われるべきとされている。一貫したカリキュラムマップや、学生が自主的に学ぶことが必要であり、シラバスを取り上げることを通じて、本学が取り組むべき方向性を見定めたい。」との上野淳副学長・FD委員会委員長の挨拶があった。

【報告内容】

以下、報告内容の骨子である。

1 「都市教養プログラムにおける初回授業45分×2回の試行について」

山下英明（教務委員会委員長・都市教養学部経営学系教授）

担当教員が賛同する都市プログラム科目について、45分同一内容講義の2回実施を来年度から試行したい。その目的は、①履修選択のための授業説明の機会を増やすこと、②シラバスではわからない情報を伝えること、③（たとえ選択しなくても）耳学問的效果をもたらすことである。学生への周知は、授業一覧の掲示により行う。

2 「都市教養プログラムにおける初回授業実践例、授業の工夫点の紹介」

樋口貴広（OU/人間健康科学研究科准教授）

「認知と行動」を担当し、登録学生は588名である。

初回授業の役割は、①講義内容の視覚化、②成績評価方法の説明である。具体的には、まず①に関しては、講義名を学生にわかりやすい形に翻訳する、各回の授業タイトルを具体例にする、多領域との学術的接点を明示する等を実践している。つぎに②に関しては、講義への積極的関与と評価の関係を明示する、成績評価方法の変更可能性を示唆する等である。

学生のポジティブな評価としては、毎回の授業を楽しんで聞くことができた、日常の何気ない出来事を学術的に考える習慣がついた、（期せずして）主専攻に活かせる知識を学べたことがある。一方、ネガティブな反応としては、「認知」について体系的に学んだという感覚に欠ける、試験による評価には適さない授業であるといったものがある。

毎回の出席管理が困難なため、シラバス記載の成績評価方法を“出席をとらない方法へ”変更したが、これについては初回にアナウンスするとともに、文書化し学生に同意書を提出してもらった。

また、授業時間外学習を促すためには、授業内外レポートを利用し、提出されたものについては翌週に講評し実例を示す等、即時的フィードバックを行うことが重要である。

大人数授業であるため、印刷物の準備、教室への移動、レポートの集計作業に予想をはるかに上回る時間を要した。そこで、授業準備、成績評価のための業務補助、採点表記載ミス防止のダブルチェックの為、TAを活用した。

3 「基礎ゼミナールの初回授業実践例」

林祐司（大学教育センター准教授）

1) 基礎ゼミの目的の確認

基礎ゼミではknowledgeではなく、skillsやattitudesを開発することが求められている。

2) 有効な基礎ゼミのために

Noe,R.A.,&Colquittによれば、有効な研修とは、①目標、目的や期待される効果を理解できる、②研修内容と研修後の生活との関連を納得できる、③他の参加者を観察できる、④他の参加者からのフィードバックがある、⑤練習機会を積極的に利用できる等であるとされる。

3) シラバスと初回演習

シラバスで前述①②について、初回演習では①②③④⑤を行う。

4) 初回演習でいかに動機づけるか。

動機づけとして、ロードマップの作成、成績のつけ方の説明を行っている。

4 「理工系共通基礎科目の初回授業実践例～線形代数～」

小林正典（都市教養学部理工学系准教授）

初回授業では、まず「線形代数とは何か」を論じた後、以下の点について説明している。

1) 講義の共通化

線形代数のクラスは全部で6つあり、シラバス、資料、サポート体制について、全クラスで共通化している。ただし、評価は各担当教員の責任で行う。

2) 授業時間内の演習

1コマは、講義60分+演習30分+自宅学習で構成される。その日の講義内容を身につけることを目指し、教員とTAが巡回し、個別の質問に対応する。毎週の授業参加が単位修得につながる。詳細な回答は後日ホームページに掲載する。

3) 授業時間外のサポート体制

毎日、数理科学コースの教員のうち誰かのオフィスアワーを設け、毎週木曜日はTAによるMath Clinicがある。さらに、臨時措置として平日6限の「数学相談室」もある。

4) テキスト

シラバスに準拠し1回で1章進むよう作成している。各章のまとめや章末問題があるので、予復習が可能であり、自宅学習の促進につながる。

5) 評価方法

試験問題40%+その他（授業参加度、演習、レポート、試験）60%とする。「授業参加度」により参加を促している。中間・期末試験は、毎週の演習内容が基準となる。

6) 注意事項

クラス指定科目なので、履修申請でクラスを間違えないように注意をする。

7) オリエンテーション（教員むけ）

前述の学生への説明を非常勤教員を含めて担当者全員が行う。そのため、初回授業前に教員がミーティングを行い、講義の進め方について説明し同意を得る。なお、共通化できる作業（演習問題の作成、HPの更新、シラバスの作成、教科書の発注等）は、コーディネーターが行う。

5 「情報教育でのBlackboardを利用した学習サポートの実践例」

北澤武（大学教育センター准教授）

本学では、eラーニングシステム（Blackboardシステム）を平成18年度に試験的に導入し、平成19年度から学部1年生を対象の情報基礎科目等で利用している。Blackboardの登録状況は、平成21年度現在95.7%であり、登録教員数は増加の傾向にある。

本システムには、授業の連絡、授業のコンテンツ、成績とコメント、課題のフィードバック、授業評価アンケート等の機能がある。

本システムに関する調査（学生対象に2007年実施）によれば、受講生のうち、学内で約半数、学外で約3割が授業時間外にシステムを利用し、課題提出や授業アンケートの回答の面で利便性を感じている。一方、システムの利用のみで授業に出席しなくても学習できるとは思っておらず、学生自身、対面授業の重要性を認識していると推察される。学習効果としては、フィードバック機能の有無が成績に直接影響し、間接的に課題意識、自己調整学習方略、自己効力感等の向上に影響を与えている。

6 「Blackboardにおける専門科目の授業の実践例」

中村憲（都市教養学部理工学系教授）

専門科目でBlackboardを使用した実践例に関する報告である。

自分の授業にあわせて様々に設計できるのが利点である。

登録（カウントの取得、科目登録）、授業の進め方（シラバス、参考書についての書店へのリンク、毎回のプリントや補足資料、課題提示と採点、フィードバック）について、具体例を示しつつ説明された。

Blackboardの利点は、少人数（20～30人程度）の専門科目に適していること、継続的に毎年行う講義に効果的なことである。一方、講師も受講生も準備に不慣れで時間がかかる、数式の入力を受講生に学ばせる必要があるといった課題もある。

7 「経営学系でのScubicを利用した学習サポートの実践例」

山下英明（都市教養学部経営学系教授）

教員のコースデザイン力の向上と授業支援を目的としたオンラインのシラバスシステムであるScubicは、河合塾と名古屋大学高等教育研究センターが共同開発したものであり、2003年より本格的に運用されている。サーバーの運用とメンテナンスは河合塾が行い、費用は年間50万円で、経営学系、大学院（ビジネススクール）で希望教員が使用している。

「学生サポート機能」としては、シラバスの参照、更新される授業計画の参照、お知らせや授業時間外の学習指示の参照、配布物のダウンロード、毎週の授業記録の参照、課題の確認・提出、みんなの部屋の利用、登録した授業の配布物、提出物の管理がある。

つぎに「教員サポート機能」としては、シラバスの登録、授業計画の登録・更新、毎週の授業記録の登録、お知らせ・授業時間外の学習の指示、配布物の登録、課題登録・提出状況の確認、みんなの部屋の利用、課題評価一覧がある。うち、前3者に関する教員の負担は重い。

効果としては、授業時間外の学習の指示の徹底、欠席者の自己学習サポート、配布物・課題の登録・提出が容易、学生間のコミュニケーション促進等がある。ただし、欠席者の増加や教員の負担増の問題があり、成績評価の利便性については疑問である。

今後の課題としては、システムの利便性の向上と単位実質化の実現がある。

【ディスカッション】

ー初回授業45分×2回の実施について

- ・都市プロでの初回授業は、これまでの半分の時間で勝負しなければならないが、どのような見通しをもっているか。
- ・すでに履修を決めている学生にとってのメリットは何か。ただ時間をカットされるだけなのではないのか。

ーその他

- ・適正な授業規模を確保するにはどうすべきか。
 - ・授業評価の中に「出席」をどれだけとり入れるのか。
 - ・大人数授業で出席を簡便にとるシステムを構築する必要があるのではないか。
 - ・ScubicやBlackboardを使用した授業の学生出席率はどうか。
 - ・非常勤講師を含めて情報の共有化が重要ではないか
- 等について行われた。

【おわりに】

高橋宏理事長から「充実した内容のセミナーであるから、より多くの人が参加しなければもったいない」との挨拶、上野FD委員会委員長より、「各先生方が真摯に素晴らしい授業をして下さっていること、ならびに、このようなセミナーを学内の講師でできるようになったことに感銘を受けた」との発言があり、セミナーを終了した。